



今月の一枚

年始の挨拶 (令和2年元旦、順慶寺本堂にて、岡川経康氏撮影)

# 順慶寺だより



印刷・発行 順慶寺  
2020年(令和2年)

2月号  
VOL.316

## ◆◆ 年始の挨拶 ◆◆

順慶寺では、大晦日深夜から元旦未明にかけて、年越し勤行と修正会が開催される。本堂では、一年のスタートをお寺からと志して参られるかたが沢山あり、その方々一人一人と寺族が挨拶を交わす。



◆ 思いやりを持って施すこと ◆

今月の言葉も、釈尊の『ダンマパダ』(359 偈)から

「田は雑草のために そこなわれる  
人は欲のゆえに そこなわれる  
げにされば  
欲を離れたる者に施さば  
その果大なり」  
という言葉です。

やはり、私利私欲にまみれた人に、様々なことを託すことはできません。やはり、自ら



## 今月のブツダの言葉

田は雑草のためにそこなわれ  
人は欲のゆえにそこなわれる



も満足し、人をも満足させることのできる円満な人に信頼はかけるものでしょう。

江戸時代後期に、経世家、農政家、思想家として有名だった人に、①二宮金次郎があります。二宮が、江戸時代の天保年間に、度重なる天災から、心と心の結びつきによって、荒廃した土地を再興しようと、「報徳仕法」を提唱したことは有名です。「報徳仕法」は、困窮した農民の生活を立て直すのに、各自にふさわしい生活の支出の限度を決め、余剰分の収穫できたものを、自分や他人に差し出し、心の結びつきを生み出す方法です。

二宮がこうした方法を見出した理由のひとつに、天の恵みを受けて育つ稲を一層育てるには、同じく天の恵みを受けて育つ雑草を抜かなければならないことに矛盾を感じたため。この問題を解決するには、我執を捨てて、思いやりをもって施しをすることが大切だと分かったからだとされます。

戦後、二宮金次郎は注目されなくなりましたが、どこか、釈尊の精神に通づるものを感じます。

◇我執の根深さ◇

「ぬいても ぬいても

草の執着をぬく」

という、②種田山頭火の俳句があります。若い頃、版画を買ったことがあるのでよく覚えていました。

山頭火は、大正昭和の俳人ですが、そのあまりに自由な作風に、孤高の人とのイメージがあります。同時代人から受けていた評価は、どれだけ身を持ち崩しても、揺らぐ事のない確かなものとされています。

山頭火は、幼少期、父親の浮気や芸者遊びに苦しんだ母親が、十歳のときに井戸に身を投げて自殺するという深い心の傷を負いました。高校を首席で卒業し、早稲田大学に入学して俳句に親しみ、父親とともに酒造業を始め、妻子を持ちます。

①【高金次郎】

天明七年（1787）、相模国栢山村の豊かな農家に生まれ。再三にわたる酒匂川の氾濫で田畑を流され、家は没落し、過労により両親は亡くなり、一家は離散。朝から夜遅くまで働き、わずかな時間も勉強し、荒地を開墾してお金を貯め、田畑を買い戻し、二十四歳までに一家を再興。小田原藩家老をはじめ、藩主の依頼により分家の桜町領を復興させるなど、

②【種田山頭火】

本名、種田正一。明治十五年生まれ。日本の自由律俳句の俳人。山頭火とだけ呼ばれることが多い。山口県防府市の生まれ。「層雲」の荻原井泉水門下。四十二歳で熊本市の曹洞宗報恩寺で出家得度して耕畝と改名。五十八歳没。

しかし、その酒造業が倒産するに至り、父親は家出し、兄弟とも離散することとなりました。やがて、弟は自殺し、妻とも離婚。関東大震災で焼け出されて、熊本の本元で暮らします。四十二歳のとき、市電に立ちほだかったため、乗客たちが怒って、禅寺に預けられました。そして、禅僧として行乞の旅を続ける中で詠まれたのが、かの有名な「分け入っても 分け入っても 青い山」 同じ頃に詠まれた「草の執着をぬく」の歌と同様に、山頭火の苦しみを感じ、心の平安を得ることの難しさを思い知らされます。 苦しみの中で歩んだ山頭火をみるにつけ、心の平安を得て、自利他円満となった仏様は、実に尊いお方だと実感します。

念仏を欲ぶ人  
**妙好人の世界**  
[第90回]  
《ありのままに》  
さぬき しょうまつ  
**讃岐の庄松**  
(14)

《阿弥陀に聞いたら分かる》

妙好人・庄松。御本山で帰敬式を受けた直後に、ご門主の衣の袖を引き留めて、

「アニキ、覚悟はよいか」と発してしまいました。

本堂で帰敬式を受けた人たちが、係のもの、みな果氣にとられ、本堂は一瞬凍り付いたように静まりかえりました。

式が終わると、大騒ぎ。

「庄松も無茶をするにもほどがある。きつと厳しいお咎めがあるぞ」

「おらたちにも、とぼっちりがくらかもしれない」

と、同行たちは口々に心配をしていると、案の定、取り次ぎの僧侶がやって来て、

「今、善知識の法会を引っ張ったものはおるか。御前に出られたし」

と、庄松にお呼びがかかりました。同行たちは、

「このものは世間知らずのバカで

ありまして、どうぞ、お慈悲をもちてお許し下さい」

と、懇願しますが、庄松は何食わぬ顔をして、御前に行くこと、あぐらをかいて座り込みました。

「先ほど衣をひっぱったのはお前か。何と申して引っ張ったのじゃ」と、ご門主が問いかけます。

「へえ、そんな赤い衣を着ていても地獄は逃れられないで、覚悟はいいかと思うて」

と、答えるので、ご門主は、

「そちは、信を頂いたか。その信の姿をひと言申してみよ」

と、続けました。

「なんともない。阿弥陀様に聞いたら早うわかる。われの仕事じゃなし、われに分かるもんか」

と、庄松は答え、ご門主を感服させたといひます。



本山・興正寺

子と共に

グレタさん



今年の冬は記録的な暖冬だそう、連日テレビでも全国の暖冬風景を放送しています。

お寺でも、この時期は境内の蓮の鉢に氷が張り、朝、通学班の子供たちが興味一杯に氷をつつくのですが、お楽しみの雪や水はお預けのままです。

このところすっかり有名になったのは、スウェーデンの環境活動家、グレタさん。十七歳という若さにも関わらず、世界各地のデモ行進に参加し、各国の政治家にも申す姿は、大人顔負けです。同じ十七歳の娘は、朝寒くてなかなか起きられず、ギリギリまで支度ができないので、同じ年とは信じられません。グレタさんの姿が、高校生の娘にも、輝いて映ってくれたらいいな…、と影ながら思っています。

佳帆子

新しいメガネになって気分一新

# 例年通りの除夜の鐘に安堵の声 年越し勤行に満堂の参詣

令和元年大晦日から令和二年元旦未明にかけて、年越し勤行および修正会が勤められ、本堂には満堂の参詣者が集まりました。

暖冬の年の瀬。例年冷え込むことが多い大晦日ですが、今年是比较的暖かい穏やかな日となりました。

年越しに備えて、寺の本堂では、すべての打敷を出してお荘厳をして、六升の餅米で衝いた餅を鏡餅にして、折敷に飾ります。昨年には、本堂の改修工事が終了し、新しい気持ちで新年を迎えることができている。また、今年から真新しい山門扉を役員全員で開くこととし、十一時三十分の開門を実施しました。



住職の年頭所感(順慶寺本堂、岡川経康氏撮影)

## 満堂の参詣者

このところ、除夜の鐘がうるさいという理由で、年越しの行事を取りやめる寺院が出ていると聞きますが、順慶寺では、例年通り、大晦日の午後十一時四十五分から、除夜の鐘を始めました。始まる前から除夜の鐘をつこうと行列ができ、百八つまでは役員の方が数を数え、それ以降は、自由についてももらいます。

除夜の鐘が始まると同時に、本堂



お汁粉接待(順慶寺本堂南落間、岡川経康氏撮影)

では、正信偈のお勤めをはじめます。今年も本堂には満堂の参詣者が集まり、全員で大きな声でお勤めをしながら、年越しをしました。

## 修正会で年頭の挨拶

おつとめをしながら年越しをする、住職が年頭所感を述べ、年始の言葉を発表します。今年の言葉は、昨年の公開講座で、講師に来て下さった上出先生が「良いことも悪いことも同じだけあって、それでバランスがとれている」と話されたことを引き合いに出して、

「良いときも悪いときも

私のひととき 家族のひととき

どのときもかけがえのない

大切なひととき」

という言葉でした。

住職に続いて、二人の責任役員の間頭の挨拶、護寺会長の挨拶がありました。皆さん、神妙な心持ちで話を聞いておられました。

その後、参詣者の皆さんは、御本尊様の前で焼香をして、お屠蘇やお汁粉の接待を受けて、帰りには、住職の年始の言葉が記されたお菓子袋をもらって帰りました。

## 編集部短信

◆順和会ゴルフコンペに精鋭一さる一月九日、真宝GCにて順慶寺の有志が集うゴルフコンペを開催。今川町の塚本則文さんが、グロス、ネットともにトップの成績で優勝。

◆役員新年会を開催―一月二十二日、四年ぶりに順慶寺役員新年会を知立市・縁にて開催。三十名の役員が参加。

◆久しぶりに寺院葬―護寺会員の権利として定められている本堂での葬儀。御遠忌の本堂等改修工事等で実施例が減少したが、一月二十三日に久しぶりに葬儀を実施。

## 編集雑記

この冬、いつもなら本堂での朝事はつらく、本堂に行くまでに凍えてしまうのですが、これまでの間、手がかじかむこともなく、着ぐるみのように着込むことなく来ています。血圧の高いものにとっては、ありがたいばかりです。

ところが、冬になると、木材が収縮して動きやすくなるはずの建具が、夏のときのように動きが悪く、異常なのは肌で感じます。このまま春になってしまうと、建具ばかりでなく、本堂の木材も悲鳴を上げてしまいそうです。

1月度護寺会物語者

香蓮院釋尼菊華

1月20日寂岡本喜久子(71)

今川西組岡本憲幸様の母

清音院釋尼妙俊

1月21日寂山本俊江(101)

東郷町山本美紀夫様の母

本年度富士松真宗教団

## 春季講座講師紹介



真城義麿氏

## 《講師プロフィール》

昭和二十八年、愛媛県生まれ。大谷大学大学院文学研究科修士課程修了(仏教学専攻)。東本願寺の関係学校である大谷中学・高等学校(京都)教諭を経て、平成九年から平成二十三年三月まで同校長。現在、愛媛県真宗大谷派善照寺住職、真宗大谷学園専務理事、日本私学教育研究所客員研究員。主書に『真の人間教育を求めて』(法蔵館発行)、『成人したあなた』(東本願寺出版発行)行など多数。



# 2月の主な行事予定

日	曜	行事内容	掃除当番
1	土		
2	日		
3	月		
4	火		
5	水		
6	木		木-1
7	金		
8	土		
9	日		
10	月		
11	火		
12	水		
13	木		木-2
14	金		
15	土	観音堂報恩講(午前午後、泉田町観音堂)	
16	日		
17	月	春季講座(午前午後、順慶寺)	
18	火	責役総代会(19:00、順慶寺玄関)	
19	水		
20	木	むつみ会班長会(10:00、順慶寺)	木-3
21	金		
22	土		
23	日		
24	月		
25	火		
26	水	山門扉取り外し	
27	木		木-4
28	金	宗祖聖人御命日(7:00、順慶寺)	
29	土		

## 2月行事内容 詳細

富士松真宗教団主催  
春季講座

2月17日(月)

午前10時〜午後3時 順慶寺

講師・真城義麿氏

例年、2月に開催されている、富士松真宗教団(岡崎教区二十一組七ヶ寺と木辺派・乗願寺)による、講座が当山で開催されます。

講師は、元大谷中学・高等学校校長の真城義麿氏(前頁参照)。真城先生は、大谷中学・高等学校の教諭を勤められた経験から、分かりやすい仏法を念頭に布教を進められ、幅広い方々から支持を得ています。

富士松真宗教団に來られて三年目となる今年は、最後の機会となります。一般の参詣も歓迎します。是非ご聴聞ください。

会費は、一般方も地域同行の方と同様の五百円。当日、順慶寺の関係者に名前を告げて、会費を手渡してください。

### 観音堂報恩講

2月15日(土)

午前10時〜 泉田町観音堂

法話・良興寺住職三浦真教氏

前順慶寺役僧・鬼頭春一さんのお寺で報恩講が厳修されます。

## お知らせ

### ●山門扉工事について

平成三十年に工事を完了した当山門の扉ですが、風雨によりケヤキ材に反りが出たため、担当の亀山建設により二月下旬より補修工事が施されることになりました。二月二十六日に山門から扉を取り外し、亀山建設に搬入後、木材の交換等の工事が施される予定。ひと月後の三月下旬には山門扉を元通りに復帰させる予定です。

### ●真宗教団カレンダー等残部の無償配布について

令和二年度版真宗教団発行のカレンダー、本山発行の『真宗の生活』と『報恩講』は、組合員またはお取越をお勤めされたお宅には配布しましたが、まだ残部が若干あります。ご希望の方は、先着順で無料にて配布いたします。順慶寺まで直接お越し下さい。なお、残部が無くなり次第終了します。

### じゅんこのときめき歳時記

## 春一番

梅の花が咲いています。やはり、もう少し寒い冬が来てから、春一番が吹いてほしいです。

### 春一番

のぼった坂を 駆け下ろす わたなべトリンこ

今年の冬は暖かいですね。もう節分だというのに、今年は氷のほる日を一日もみていません。大寒なのに、学校へ行くときに、手袋やマフラーがいりませんでした。一月には雨が多くて、強い風が何度か吹きました。冬の空っ風は、どこか肌を刺すような寒さだと思いますが、今年は、南よりのあたたかい強い風が吹いて、春一番と勘違いするようなことが何度もありました。

天気予報では、記録的な暖冬らしいですが、お寺の庭でも、もう

